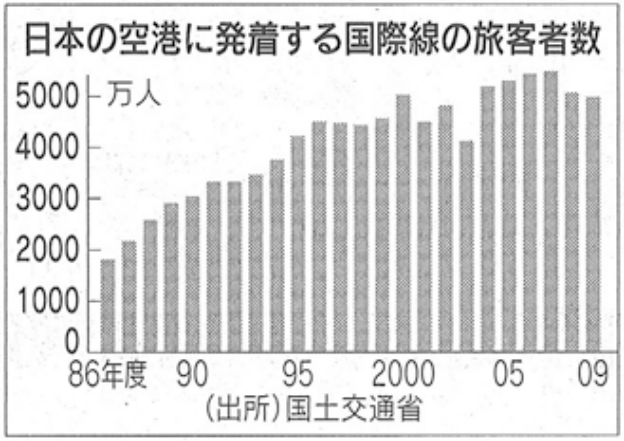
# 週目点




## ▶羽田新国際線ターミナル開業(21日)

# アジアのハブ空港へ期待

羽田空港で21日、新しい国際線旅客ターミナルビルが開業する。4本目の新しい滑走路が運用され始め、訪日外国人用の観光案内所などもオープンする。

滑走路の完成により、これまで年間約30万回だった発着枠は2013年までに40万7千回に増える。この増加分のうち9万回が国際線に割り振られ、アジアや米国などに向けて新規路線が開かれる。

国際線を担ってきた成田空港に比べ、羽田は都心からの距離が約3分の1と近い。アクセスの良さは世界的に見ても出色で、空港としての国際競争力は高い。巨大な首都圏の市場や産業集積に直結していて、対日投資・対外進出の双方を促すだろう。

運用の工夫などでさらに発着枠を増やせれば、羽田は韓国・仁川空港などに対抗する東アジアで中心的なハブ(拠点)空港になりうる。訪日観光客に加え、海外企業のトップらが使うビジネスジェットの利用も拡大できよう。

政府が羽田は国内線、成田は国際線という、これまでの規制的な「刷り込み」を取り除き、競争環境を整備すれば民間の活力と創意工夫が生まれる。これは少子高齢化の進む日本にとって、新たな経済成長の方法を示唆している。

羽田の飛躍に地方空港も学ぶべきだろう。もともと需要見通しが甘く、さらに国内大手の路線縮小のあおりを受けているが、格安航空会社(LCC)や観光チャーター便の誘致など創意工夫で方策はありうる。中央に頼らず地域活性化の起爆剤とする発想が今求められている。

早稲田大学教授
川本　裕子

(C)日本経済新聞社　無断複製転載を禁じます。